

事業概要（宇迦橋）

- 施工年度：令和元年度～令和7年度
- 事業箇所：出雲市大社町修理免
～出雲市大社町杵築南
- 橋長：68m
- 事業費：約19億円
- 道路規格：道路規格4種4級
設計速度30km/h
- 道路幅員：車道6.0m＝3.0m×2車線
歩道3.0m×2
- 上部工：2径間連続PC中空床版橋
- 橋台：重力式橋台（鋼管杭基礎）
- 橋脚：壁式橋脚（直接基礎）

宇迦橋架け替え工事沿革

- 令和元年12月：架け替え工事着手
- 令和3年3月：迂回路交通切替
- 令和3年4月：旧橋撤去工事着手
- 令和4年1月：下部工着手
- 令和6年3月：上部工着手
- 令和7年4月：橋梁附属物工着手
- 令和7年12月：架け替え工事完成

～宇迦橋開通～ 神門通り線2工区

島根県出雲県土整備事務所都市整備課



令和7年12月撮影

宇迦橋の歴史

- 1912年（明治45年）大社駅開業
- 1913年（大正2年）大社駅からの参詣道
「大社停車場線」入札
- 1914年（大正3年）初代宇迦橋（木橋）完成
- 1915年（大正4年）大鳥居 完成
- 1937年（昭和12年）現在の宇迦橋（コンクリート橋）完成
- 1984年（昭和59年）大鳥居交差点に信号設置
- 1990年（平成2年）大鳥居の改修（大鳥居が白く塗装される）
- 2017年（平成29年）架橋から80年



建設直後の宇迦橋



昭和30年代以前の宇迦橋と大鳥居

宇迦山にちなんで命名

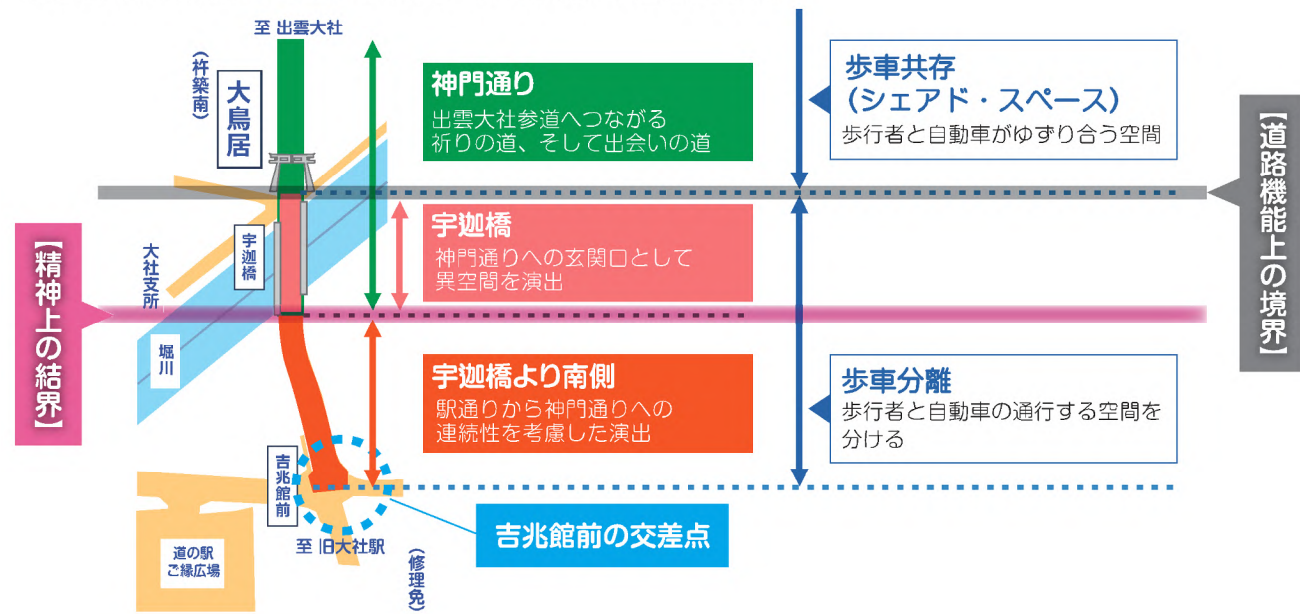
宇迦橋の南詰にある石碑には、当時の橋の名付け親である島根県知事 高岡直吉の思いが以下のように刻まれています。

「この橋を宇迦と命名するのは、かつてその山の下に、オオクニヌシが宮殿を構えた、いわゆる出雲朝廷があった場所、いま出雲大社がある、宇迦山にちなむのである。参詣者の人々よ、この橋の名は、単なる思いつきではなく、かかる深いゆかりに基づくことに思いをはせてもらいたい」

歴史を踏まえた神門通り線 2 工区の位置づけと考え方

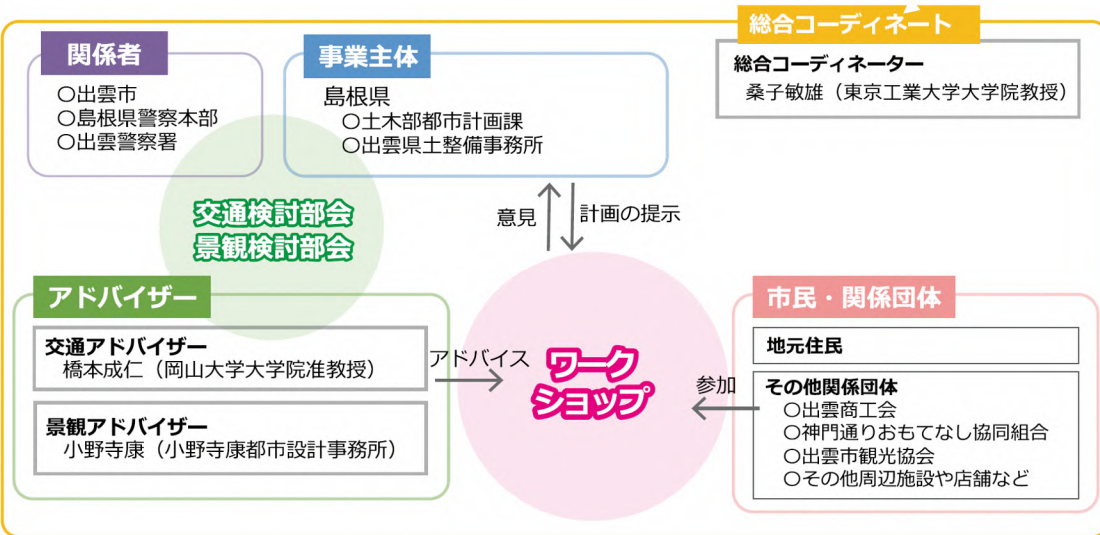
宇迦橋は川に対して斜めにかけられ、出雲大社の参道から直線に伸びる道路の延長線に沿って架けられています。当時の島根県知事 高岡直吉は、大社駅開業と直線道路の整備をきっかけに「神域」を広げ、宇迦橋をその起点と位置付ける意識があったとみられます。このことから、宇迦橋の南詰を「精神上の境界」とし、宇迦橋は神門通りへの玄関口として異空間を演出します。

また、大鳥居交差点より南は、東西の市道からの生活車両の流入により交通量が多く、通学路、緊急車両の通行ルートとしての位置づけもあることから、大鳥居交差点を「道路機能上の境界」とし、大鳥居交差点から南は歩行者と自動車の通行する空間を分ける「歩車分離」の道路とします。



ワークショップ

平成29年3月から平成30年7月にかけて、ワークショップを5回開催（延べ参加者数：371名）しました。神門通り線（2工区）の道づくりや周辺のまちづくり等について意見が交わされ、架け替えを計画している宇迦橋とその周辺のデザインが決定しました。



- 第1回道づくりについて考える〔平成29年3月6日（月）開催〕
神門通り線 2 工区の事業の概要を確認し、安全で景観にも配慮した新しい道路のあり方について考えた
- 第2回宇迦橋の景観について考える（デザインコンセプト）〔平成29年5月24日（水）開催〕
宇迦橋やその周辺の歴史、景観の特性について学び、景観検討に向けたコンセプト（基本方針）について考えた
- 第3回宇迦橋の景観について考える（デザイン案の提示）〔平成29年7月27日（木）開催〕
複数のデザイン案をもとに、宇迦橋やその周辺にふさわしい具体的な景観デザインについて考えた
- 第4回宇迦橋の景観について考える（最終デザイン）〔平成29年11月8日（水）開催〕
これまでのワークショップでの議論の内容を振り返り、宇迦橋やその周辺の最終デザインについて考えた
- 第5回まちづくりについて考える〔平成30年7月20日（金）開催〕
これからの宇迦橋周辺のまちづくりや、工事期間中のPR方法などについて考えた

宇迦橋高欄デザインの特徴①

「和の質感を持つ本物の素材を活かしたデザイン」

選考にあたり、以下の項目に着目し、最終デザインには「鉄高欄」がふさわしいと判断しました。

■1工区との連続性

1工区のコンセプトを踏襲し、素材や形状、明かりの雰囲気など連続性に配慮したデザイン

■橋全体のバランス

橋梁種類が薄い床版のコンクリート道路橋となるため、床版と高欄とを合わせた橋全体のバランス

■本物の素材

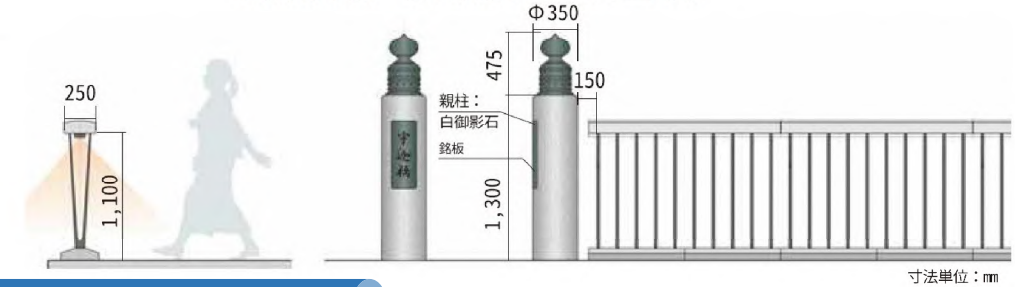
単体の部材として成立するかどうか
※例えば石高欄では石の中に芯となる別の材料（鋼材等）が必要になる

■大鳥居を引き立たせるデザイン

大鳥居が主役となるデザイン

■神門通りにしかないオリジナリティ

鉄高欄（鉄縦柵＋石笠木）



宇迦橋高欄デザインの特徴②

光の範囲を広げる工夫

- ・第4回ワークショップでは「縁石の方が暗いのが気になる」といった意見がありましたので、明かりの範囲を広げるよう配慮しました。

柵隠しのデザイン

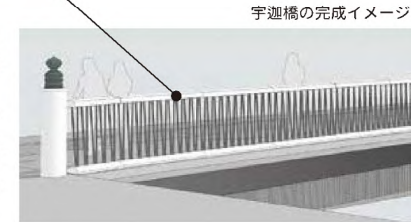
- ・宇迦橋には電線類などの管路を渡す機能も求められます。これらの管路を目隠しするための「柵隠し」はあまり目立ち過ぎないシンプルなデザインを検討します。
- ・橋柵は中央部がやや高くなりカーブを描いていますが、柵隠しは同じ幅で全体を通します。



柵隠しのイメージ
(松江市米子町 堀川にかかる米子橋)

笠石のデザイン

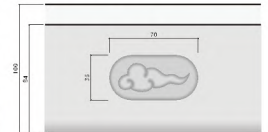
- ・第4回ワークショップでは、雲などの彫り物ができないかという意見をいただきました。
- ・笠石の側面には、立体的な「雲」のイメージを彫り込むことを検討しています。歩きながら触って気づいてもらえるような、さりげないデザインとします。



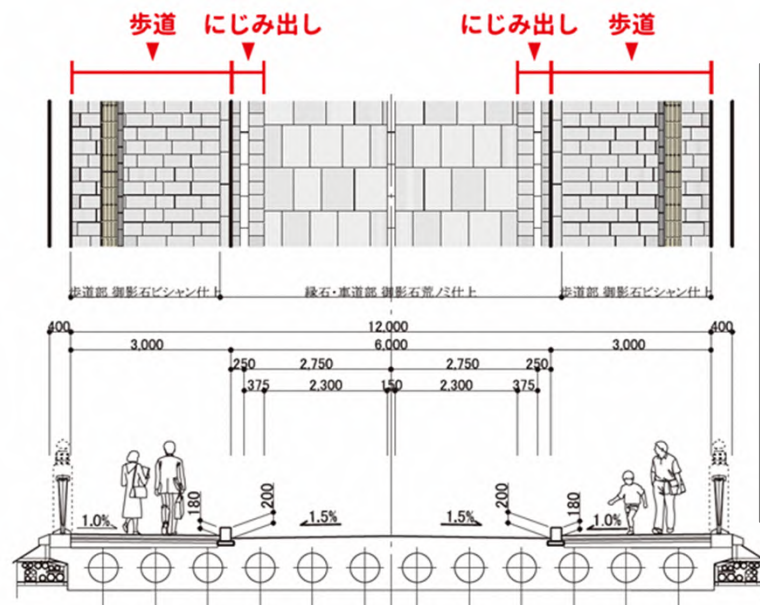
宇迦橋の完成イメージ



◀彫り込みの例
笠石の側面に彫り込む「雲」のイメージ▶



宇迦橋石畳舗装デザインの特徴



- 1工区と同じ石畳舗装を採用しました
- 車道はグレー2種類の御影石で、歩道は小さいピースでグレー2種類と黒い御影石が散らばったような舗装です
- 車のドライバーに注意を促すため、歩道の舗装パターンを車道側ににじみ出させています
- 縁石の側面は荒い仕上げにし、夜間にも車道側から見えやすくしています